



第 73 号

令和7年7月1日

ふすま同窓会本部



ごあいさつ

ふすま同窓会 会長
高 橋 節 (人文2回)

今山形では、初夏の風物を代表する「さくらんぼ」から始まる果樹出荷のシーズンを迎えています。特に今年は、本県でさくらんぼの栽培が始まってから150年の記念すべき節目の年に当たるとあって、秋の「ラ・フランス」等まで様々な記念イベントが計画され、多くの観光客等で賑わうものと思います。

去る5月17日に同窓会総会が開催され、本年度の事業計画等を承認していただきました。その中で、昨年度に検討を進めた「法人化」に関する具体的な取組みに関する手続き（定款制定など）の承認は、今後の同窓会運営をさらに充実していくために大切な契機になるものと認識しています。法人化に向けた考え方については、本年1月にホームページ（HP）に掲載し、会員の皆様から

の意見等をいただいたところですが、改めて本紙に特集を組みましたので是非ご覧ください。法人のスタートは、10月1日を予定しています。引き続き、会の運営に対するご理解とご協力をお願いします。

会員の皆様に対する情報提供は同窓会活動で大切なことの一つです。これまで紙面による発行を継続し、会費の払込をお願いする「払込取扱票」と合わせて郵送してきました。一方で、情報化社会の進展により提供媒体が拡大してきています。既に、構成内容を大幅に見直したHPなどでのタイムリーな話題の提供及び既発行会報の掲出さらには学生会員へのメール配信を実施しています。

こうした状況から、現在の会報紙発行（郵送）についての見直し検討を進めています。この結果については随時HPに掲出いたしますので、是非ご覧ください。

また、昨年度見直しスタートした「ふすまの集い」は、下記要領により開催します。講演会、ティーデマン・ふすま賞の授与を合わせて行いますので、奮って参加いただきたいと思います。

令和7年度「ふすまの集い」に集まろう!!

令和7年度の「ふすまの集い」は、講演会と懇親会を同日に開催します。
多くの会員の皆様方が参加してくださることを期待しております。

◆講演会

日 時／令和7年 **10月18日** (土) 16:00～
会 場／山形国際ホテル 5階 (山形市香澄町3-4-5)
講 師／高橋 怜子氏 (海洋写真家／理学部化学科卒業)
演 題／「今、考える人生」

◆懇親会

日 時／令和7年 **10月18日** (土) 18:30～
会 場／山形国際ホテル 3階
会 費／9,000円 (事前申込)

◆当番幹事

人文・理学部22回／人文・理学部38回／人文・理学部39回

＜懇親会の申込方法＞

令和7年9月30日までに、次のいずれかの口座に会費を振り込んでください。

- ① ゆうちょ銀行口座 (記号番号: 02250-9-122713 / 山大ふすま同窓会) 払込取扱票に卒業学部・年度も記載してください。
- ② 山形銀行普通預金口座 (県庁支店: 768693 / 山大ふすま同窓会幹事村山智也) 併せて同窓会ホームページの参加申し込みフォーマットに所要事項入力・送信してください。

令和8(2026)年度 ふすま同窓会総会予告

期日(予定) / 令和8年5月16日(土)
場所(予定) / 山形大学ふすまホール

同窓会組織の法人化について

昨年の総会（令和6年5月18日）において、同窓会組織の法人化検討の承認を得てから鋭意作業を進め、本年1月に、その基本的な考え方を当会ホームページ（以下、「HP」という。）に掲載し、皆様からの意見を募りました。

「法人化を進めるべき」との声に沿って、法人定款（案）、現同窓会の解散、残余財産の新法人への引継ぎ、現会員の新法人への移行等の関係議案を取りまとめ、本年の総会（5月17日）での議決をいただきましたので、今後、本年10月1日の法人設立に向けて各般の作業を進めていきます。

会員の皆様からより一層ご理解をいただくためにその概要を取りまとめました。

1 法人化を目指す基本的考え方は、次のとおりです。

旧制山形高等学校が創設（1920年）されてから100年の節目を経過した当同窓会は、これまで35,000人余の会員在籍を数え、最近においては、毎年500名を超える学生会員を迎え入れる組織となりました。この間、任意団体（権利能力なき社団）として、自主的な規律の下で、目的に掲げた「会員相互の連携及び親睦」や「母校の発展に寄与」等において、特に大きな問題を抱えることなく運営されてきました。

一方で、2012年に終身会費制による会費徴収制度が創設され、大学入学時に終身会費（20,000円）を納入していただくことで主要な財源が確保できることになりましたが、この高額な会費の納入をお願いする合理性とその適正な管理が求められていることは言うまでもありません。さらに、同窓会の所有地及び建物（同窓会館）の管理を個人（会長）名義で登記しなければならないという課題を抱えています。

また、国立大学の法人化に伴う運営において、同窓会等の地域団体と相互に連携した取組みが求められる時代となりました。「母校発展に寄与する」という目的を掲げる当会においても、確たる人格を持つ団体となって、相互に連携、協調した活動を展開する時期が到来していると考えております。全国的にも活発に進められている同窓会の法人化等の取組みは、まさにその証左でもあります。

こうした現状等に鑑み、法的な根拠に基づいて社会的信用を得て、諸規定に沿った運営の下で組織のガバナンス力を高めていくことが必要になります。

2 法人化の主なメリット、デメリットは次のとおりです。

（メリット）

- ・任意団体より社会的な信用が高まる。（活動の範囲が広がる。）
- ・同窓会館（土地、建物）を同窓会名義で登記できる。（適正な管理となる。）
- ・同窓会としての銀行口座をもてる。（適正な管理となる。）
- ・個人所得（資産）とみなされるリスクを回避できる。（安全な財産管理ができる。）
- ・法人からの寄附金の一部を損金算入できる。（資金獲得の拡大となる。）
- ・運営、会計報告等の第三者性が担保できる。（公的な基準に基づきなされる。）

（デメリット）

- ・余剰金の分配ができない。
（これまでも実績として分配してこなかったが、制度的にできなくなる。）
- ・設立のための費用（定款認証料、登録免許税など）を要する。
- ・組織運営のための費用（役員登記費用など）を要する。
- ・法人住民税が発生する。（非営利性を徹底すれば、非課税又は減免となる。）

3 法人名称を「一般社団法人山形大学ふすま同窓会」として登記します。

旧制高校（山形高等学校）から新制大学（山形大学）の卒業生で構成される同窓会で、全国的にも稀有な存在であることを再確認し、会員規定においてはこの枠組みをしっかりと引き継ぎ会員相互の交流を進めます。

一方で、山形大学卒業生が会員の殆どを占める現状等に鑑み、「山形大学」を名称に冠することにより、関係者のみならず広く一般からの認知度を高め事業展開をさらに広めていきます。

また、「ふすま」の文字が、出羽の秀峰「鳥海山」に自生する高山植物「チョウカイフスマ」をモチーフとした旧制山形高等学校の校章に由来していることについては、しっかりと継承していきます。

4 設置目的及び事業展開については、基本的に現在の会則の規定を引き継ぎます。

「会員相互の連携と親睦」を図り、「母校との連携のもとにその発展に寄与」していきます。

また、学生会員の段階から同窓会活動への理解と参画を得ていくため、「学生会員の活動を支援する事業」を明記し、その取り組みを拡充していきます。

5 主要な事項は、次のとおりです。

法人の組織及び運営については、定款（注）に具体的に定めることになりますが、これまで大きな問題を抱えることなく進められた現在の運営方法を可能な限り継続することとし、法令の定めるところにより変更・追加しなければならない事項に絞って対応していくこととします。

（注）定款は、公証人による認証と法務局での登記を必要とします。

(1)会員の定義

義務の履行（会費の納入）と権利の行使（法人運営への参画）を勘案し、会員の定義を行います。権利を行使できる会員を正会員とし、正会員は会費納入者とします。

運営に対する協力者を拡大するため、新たに、名誉会員及び賛助会員を新設します。

現 行		法 人
正会員（卒業による会員資格）	→	一般会員
	→	正会員（会費納入者）
学生会員（在学生）	→	変更なし
特別会員（教職員）	→	変更なし
	→	賛助会員（理事会承認）
	→	名誉会員（理事会承認）

(2)（正）会員の権利

正会員について、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（以下「法人法」とします。）に定める権利（定款、社員名簿、議事録、計算書類等の閲覧等）の行使を可能とし定めます。

(3)代議員総会

法人法に基づき社員総会を設けなければなりません。正会員に等しく同窓会運営に関する権限を定めるとともに会員総意による総会運営を効率的にすすめるため、「代議員制」を導入します。

①正会員の中から選出された代議員を法人法上の「社員」とします。

②代議員の定数は、「100人以内」とし、正会員の一定数に対し1名とします。

（その割合は、代議員総会で定める規則に基づき、理事会で決定します。）

③代議員の選出は、正会員の代表等から構成される「候補者選考委員会（仮称）」による素案を下に「会員総会」（＊）において行います。

（＊）代議員の選任・解任を主な目的に設置し、代議員総会に先立って同日開催します。

④任期は「４年」とし、再任を妨げないものとします。また、辞任等による補充代議員の任期は、残任期間となります。

⑤代議員総会では、会費の種類・額の決定、事業報告・決算の承認、定款の変更、規則の制定等を行います。

(4)役員及び理事会

代議員総会において選任された役員（理事及び監事）により、具体的な事業運営を進めます。

①役員定数は、次のとおりとし、理事の互選により、会長、副会長及び常務理事（業務執行理事）を定めます。

・会長	１名
・副会長	２名以内
・常務理事	１名
・理事	６～１０名
・監事	２名

②任期は、理事は「２年」、監事は「４年」とし、再任を妨げないものとします。

③理事会では、事業計画及び収支予算を含む業務執行の決定、規程の制定等を行います。

(5)会費

現在の会費制度（終身会費、年会費）を引き継ぎます。

また、同窓会に対する学生会員の認知度を高め、その活動に対する支援を強化していくため、新たに新入生から入会金を徴収することにします。

終身会費、年会費及び入会金の額については、会費等規則として代議員総会で決定します。

(6)主要な書類の整備と配備

法人法等に基づき、貸借対照表、損益計算書等の必要書類を作成し、一定期間事務所に配備するとともに、電子公告等により広く広報します。

(7)事業年度

現在の取り扱いと同様に、４月１日から３月31日までとします。

なお、初年度は、法人登記の日から令和８年３月31日までとなります。

(8)支部

今回の法人化への組み入れは行いませんが、これまでと同様に、相互交流、活動支援等の連携をしていきます。

(9)非営利団体としての要件の具備

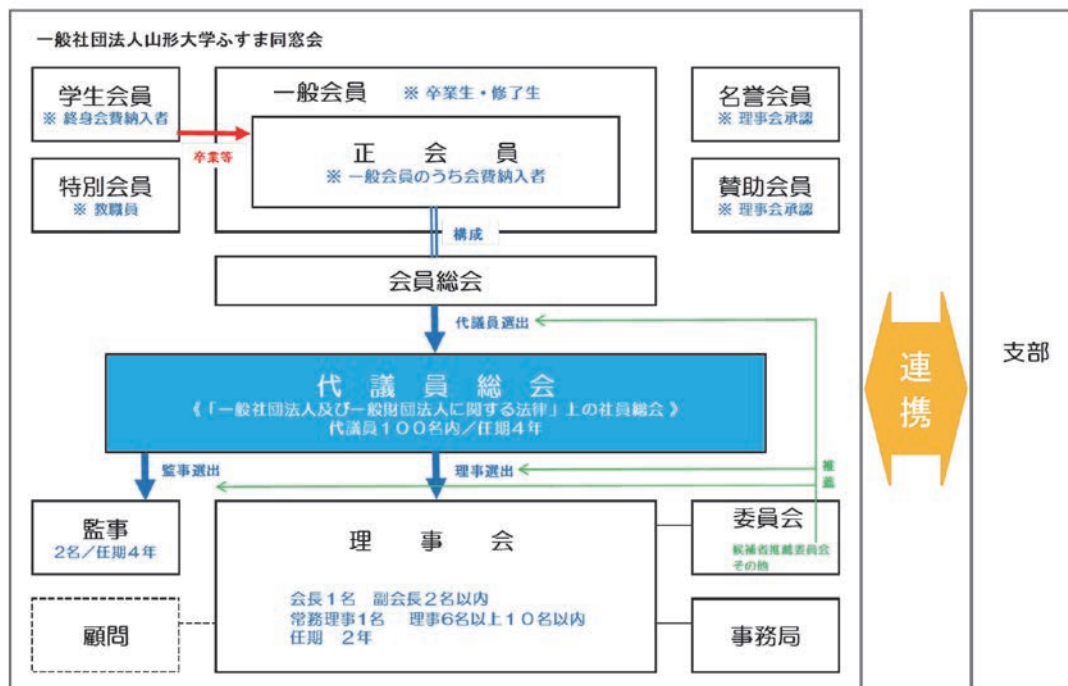
非営利団体としての要件を整え課税対策（非課税、減免）を徹底します。

①剰余金の分配を行わない。

②残余財産を類似団体に贈与する。

③役員等への親族就任を制限する。

(参考) 一般社団法人山形大学ふすま同窓会組織図



6 令和7年度総会の決議

令和7年5月17日(土)に開催した通常総会において、法人化に向けた次の議案を可決していただきました。

- ①法人化方針の決定(前述のとおり。)
- ②法人定款(法務局で登記したのちに、HPに掲載します。なお、定款(案)については掲出済です。)
- ③ふすま同窓会(任意団体)の解散(新法人の設立を以て解散する。)
- ④新法人への残余財産の引継ぎ及び会員移行(会員移行については、個人の申出を尊重します。)

この場合、HP「同窓会の法人化について」の申出フォームに必要事項を記入のうえ申出下さい。

総会決議を受けて、今後、法人化に向けた具体的な作業(定款認証、法人登記、諸規則、規程案の作成等)を進めていきます。その概要については、適宜、ホームページに公表していきますのでご覧下さい。

法人化あれこれ

○法人化後の本部と支部の関係について

法人化を進めるにあたって、支部組織をこの枠組みに加えるべきか否かについて検討を進めました。具体的には、各支部総会への参加や支部長会議においてこの話題を提供するなどにより意見交換を重ねましたが、結果として、法に基づく要請(総会における定足数管理、財務諸表作成、会計管理など)に応えられる体制を構築できるかなどの点から、今回は法人化への組入れを見送ることとしたものです。法人化後においても、支部との連携を考慮した代議員の選出などに努め、これまでと同様の相互交流、活動支援などを進めていきます。

○新規事業への取り組みについて

任意団体のままでは、相手方との交渉において「不適」とされるなど課題を抱えることが多々ありました。法人格を有することにより、一つの事業主体としての位置づけが明確になり交渉が円滑に進められます。新規事業の具体的な展開については、会員の皆様からの意見等もお寄せください。

令和7年度 ふすま同窓会総会報告

1 概要

令和7年5月17日(土)、理学部先端科学実験棟4階の「ふすまホール」を会場にふすま同窓会総会が開催されました。

「ふすまホール」は同窓会が視聴覚機材整備の支援を行った施設で「ふすま」の名称が冠されており、昨年度に引き続き会場としたものです。



総会では、高橋節会長（人文2回）が議長に選出され議事がすすめられました。最初に事務局より令和6年度事業報告及び決算報告が、齋藤知行監事（文理15回）より監査報告が行われ、いずれも案のとおり決定されました。続いて、本総会における重要な議題である「同窓会の法人化」（①ふすま同窓会の一般社団法人化について、②一般社団法人山形大学ふすま同窓会定款の制定について、③ふすま同窓会の解散について、④事業、残余財産及び会員の一般社団法人山形大学ふすま同窓会への承継について）が会長及び事務局より説明され、いずれも案のとおり決定されました。引き続き、事務局より令和7年度事業計画（案）及び収支予算（案）が説明され、いずれも案のとおり承認、決定されました。



最後に、会長より任期満了に伴う役員の就任及び委嘱について説明され、案のとおり承認されました。

（総会出席者数39名）

総会終了後、小白川キャンパス内の厚生会館食堂に会場を移し、懇親会が開催されました。来賓として玉手英利学長、森岡卓司人文社会科学部長、並河英紀理理学部長、中村文子人文社会科学部副学部長にご出席いた



だき、遠路参加いただいた松岡史和北陸支部長代理（文理16回）の乾杯で懇談が始まり、加藤学関西支部長（人文3回）、穴戸勇仙台支部長（文理15回）のスピーチもあり、大変な盛り上がりとなりました。

（懇親会出席42名）



2 令和6年度事業報告

同窓会ホームページをご覧ください。

3 令和6年度決算報告

令和6年度収支決算書（19頁）のとおり。

4 同窓会法人化

法人化については、2頁から5頁をご覧ください。

5 令和7年度事業計画

同窓会ホームページをご覧ください。

6 令和7年度予算

令和7年度予算（19頁）のとおり。

7 任期満了に伴う役員の就任及び委嘱について

ふすま同窓会（事務局） 林 義和（人文13回）

ふすまの集い

これまで開催してきた「ふすまの日・ふすまの夕べ」を、令和6年度より「ふすまの集い」として開催することになった。これまでは記念祭時に講演会を行っていました。今回より、懇親会だけでなく、講演会を併せて行うこととした。

〔懇親会〕

令和6年10月25日(金)、山形市の国際ホテルにおいて、多数の同窓生・関係者に加え、現役学生も参加し、盛大に開催された。



午後6時に開催され、はじめに山形大学の混成合唱団により、みどり樹をはじめ数曲合唱ののち、ふすま同窓会の高橋節会長、山形大学の森岡卓司人文社会科学部長、並河英紀理学部長から、大学の近況等を含めてご祝辞を賜りました。



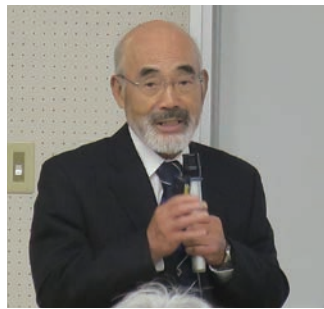
そして、関西より参加した目加田英輔氏(理4回卒)の音頭で声高らかに乾杯、懇談に入りました。

会場内は、久しぶりに集まった同級生、先輩・後輩が、時代や学部を超えて親睦を深め、大いに盛り上がりました。

最後に、令和7年度の幹事となる人文学部・理学部の22回卒、38回及び39回卒を代表して、人文22回卒の大瀧亜樹次期幹事の挨拶により、来年度の再会を一同で誓い合うとともに、高橋伸幸さん(人文36回卒)の音頭で、花笠締めで会を締めくくりました。

〔講演会〕

講師は、山形大学理学部物理学科第1回卒業生で、南極観測隊に4度参加し、第29次隊夏隊長、第34次隊越冬隊長を務められた国立極地研究所名誉教授の佐藤夏雄さんです。



100年記念祭で行われる講演会で講師にお願いしていましたが、コロナ禍で開催できませんでした。今回お願いしたところ快くお引き受けいただき、実施の運びとなりました。演題は「南極の大

自然と観測隊～厳しく壮大な大自然と閉ざされた環境での越冬生活～」で10月26日(土)に山形大学理学部ふすまホールで開催されました。



南極探検の歴史から観測隊員になって体験された南極までの船旅、南極の大自然、厳しい越冬生活やオーロラや動物の話など盛りだくさんのお話を分かりやすく、説明いただき、参加者の皆様方から質問が途切れないほど盛況でした。

今回は、同窓会会員だけでなく多くの市民も参加し開催されてよかったが、学生に講演会のことが周知しなかったためか、学生の参加者が少なかったのが残念でした。(H. O)

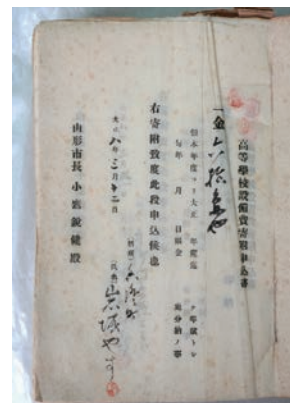
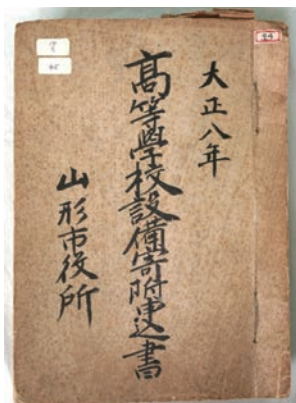
『高等学校設備寄附申込書』が語る山形大学と地域

小幡 圭祐（人文社会科学部准教授）

今年の3月に刊行された『東北大学史料館研究報告』第20号に、「寄附からみた旧制山形高等学校の創設と地域社会」というタイトルの論文が掲載されました。

これは、山形大学社会文化創造研究科に在籍し歴史学を専攻している大学院生の佐久間佳奈美さん（人文社会科学部卒業生、令和6年度ティードマン・ふすま賞受賞）が、ふすま同窓会が所蔵する『高等学校設備寄附申込書』を詳細に分析し、その成果を主指導教員である小幡と共著で学術論文としてまとめたものです。

ふすま同窓会が所蔵する『高等学校設備寄附申込書』は、平成30年にふすま同窓会の百年記念祭の準備過程で『出陣学徒芳名簿』とともに「再発見」されたもので、同年8月2日の学長定例記者会見にてその存在が明るみとなりました。このうち『出陣学徒芳名簿』については、小幡がふすま同窓会の所蔵する学徒出陣関連の資料とともに分析を加え、2022年に『東北大学史料館研究報告』第17号に「旧制山形高等学校の学徒出陣」のタイトルで学術論文として公表していましたが、『高等学校設備寄附申込書』については手つかずのままでした。



論文の概略を少しだけ紹介しましょう。『高等学校設備寄附申込書』には、旧制山形高等学校の創設費用79万5000円のうち、山形市を通じてなされた寄附約20万円の寄附者の情報が記されています。当時の20万円は、現在の価値に換算すると、およそ1～2億円に当たります（戦前基準の企業物価指数を指標とすると約1億円、消費者物価指数を指標とすると約2.6億円）。分析の結果、寄附者の総数は668（団体26・個人642）にのぼり、山形市の商工業者を中心とした幅広い層の方々から寄附がなされていたことがわかりました。ごく一例を挙げれば、団体では現在の山形銀行にあたる両羽銀行、個人では寿虎屋酒造の社長でのちに山形市長をつとめた大沼保吉が名を連ねています。寄附者のご子孫には、現在も地域で活躍している団体・個人も多数見受けられます。

山形大学の前身の一つである旧制山形高等学校が、地域の方々から多額の寄附によって設立されたことは、『ふすま同窓会百年誌』など、これまで刊行されてきた記念誌などでも取り上げられ、よく知られている事実ですが、今回の論文で、どのような方々が寄附を行ったのか、寄附者の具体像が初めて明らかとなりました。『高等学校設備寄附申込書』から明らかになったのは、学校の設立を熱烈に歓迎していた地域の姿です。現在の山形大学では、将来ビジョンのなかで、「地域から愛され、地域と共に発展する大学」を目指すことが謳われていますが、実はそれが旧制山形高等学校以来の伝統であることを『高等学校設備寄附申込書』は私たちに教えてくれます。

今回掲載された「寄附からみた旧制山形高等学校の創設と地域社会」、ならびに「旧制山形高等学校の学徒出陣」については、下記の東北大学機関リポジトリ（TOUR）でPDFが公開されております。また、寄附者のご子孫の皆様には、論文を印刷した抜き刷りを無料で配布します。

連絡先：山形大学基金事務室

メール：yu-kikin@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

電話：023-628-4280

会員の皆様にも広くお読みいただければと思います。

【東北大学機関リポジトリ（TOUR）】

「寄附からみた旧制山形高等学校の創設と地域社会」

<https://tohoku.repo.nii.ac.jp/records/2003553>

「旧制山形高等学校の学徒出陣」

<https://tohoku.repo.nii.ac.jp/records/137224>

第36回 ティーデマン・ふすま賞授賞式

理学部先端科学実験棟4階ふすまホールで令和6年10月26日(土)に行われた。受賞者は佐久間佳奈美さんと菊地真魚さんの2名でした。

式では、審査委員長の宮地理学部副学部長より審査報告を頂き、高橋節ふすま同窓会長より受賞者に賞状とメダル、賞金が贈呈されました。



論文の概要

桂園内閣期の貴族院

－ 第一次西園寺内閣下の三島弥太郎を中心に － 人文社会科学部人文社会科学科卒業

佐久間佳奈美

本論文は、桂園内閣期の貴族院の議会活動について、貴族院議員・三島弥太郎の政治動向に基づき考察した研究である。全2章構成であり、第1章では三島が貴族院議員に就任するまでの経緯、第2章では1904年(明治37)～1908年(明治41)における三島の議会活動について論じた。

桂園体制とは、桂太郎が統率する官僚勢力と西園寺公望を総裁とする立憲政友会の妥協提携体制のことである。これまでの貴族院研究では、院内最大会派・研究会が官僚勢力に追随したことから、桂園体制下の貴族院は官僚勢力の傘下であるとされてきた。また、研究会幹部である三島が官僚勢力に協力したことを理由に、同会は官僚勢力に追随したとも理解されている。

本論文では、三島の議会活動を分析して、これらの貴族院像の転換を図った。

第1章では、1900年(明治33)伯爵議員補欠選挙における三島の活動から、三島は広範な政治勢力に顔が利き、交渉手腕に長ける人物であったと考察した。研究会にとって、このような政治資産を持つ三島は、同会が他の政治勢力と政治交渉をする際に都合のよい存在であった。それを自認した三島は、積極的に交渉の役割を担うことで、研究会内で自身の政治的地位を向上させた。

第2章では、1904年(明治37)～1908年(明治41)における三島の議会活動から、研究会は内閣との会談や交渉を重視する議会活動を行ったことを明らかにした。三島含め研究会は、交渉の場で内閣に対抗または協力する態度を取ることで、内閣に対して自派の政治的影響力を示そうとした。官僚勢力は、このような研究会の活動に左右されながら議会活動を行った。

以上を踏まえ、第一次西園寺内閣下の貴族院は官僚勢力に従わずに、柔軟で主体的な議会活動を行ったという結論を導いた。三島・研究会は、交渉重視という自派の議会活動方針を徹底することで、貴族院の役割を果たそうとした。

両親媒性共重合体薄膜における 自己組織化構造転移に関する研究

理工学研究科博士前期課程修了

菊地 真魚

本論文では、これまで文字通りランダムな構造しか作りえないと猛進されてきたランダム共重合体が、自己組織化により秩序ある階層構造を形成することを示し、さらにその構造を分子レベルで制御可能であることを示した。

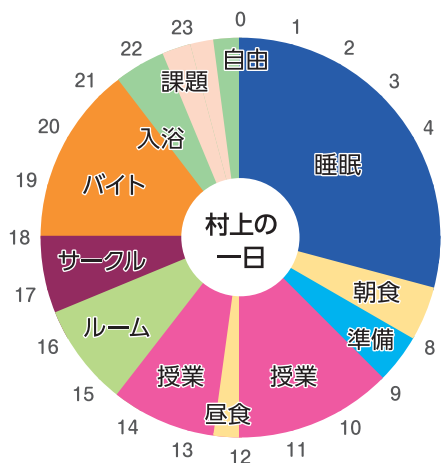
ナノ材料分野において、1桁nmの微細構造を低コスト・低エネルギーで容易に作成する技術が求められている。これまで互いに混ざり合わない高分子鎖が方末端で連結したブロック共重合体が形成する自己組織化サイズは数10nmと現在必要とされるサイズの10倍以上大きい。一方、我々はアルキルアクリルアミドからなる汎用のホモ・統計コポリマー薄膜において、主鎖と側鎖間での相分離や、コモノマー間での相分離により1桁nm周期のラメラ構造を形成すると報告している。本論文ではこのようなコモノマー間の相分離において形成される自己組織化構造が、コモノマー組織と熱アニール温度により異なる2種類のラメラ構造を形成できる事を見いだしたものである。さらに得られる構造のX線散乱測定やPTIR分光による分子構造解析から、その構造の違いが分子間で発生する相分離力と、構造化に伴い高分子鎖に発生する機械的歪みの競合により形成されることを明らかにした。

以上の結果、コモノマー間の混和性(組織)と主鎖歪み(アニール温度)とを制御することで、分子レベルの配向が制御された2つのラメラ構造を作り分ける事ができるだけでなく、その温度により可逆的に構造変化可能なorder・order移転することを明らかにした。論文で示された1桁1nm周期の秩序構造は、半導体製造におけるリソグラフィテンプレートや、水処理膜、プロトン伝導電解質膜、プロトン伝導電解質膜などに求められ、高分子材料分野のみならず、環境・エネルギー分野にもイノベーションを引き起こすことが期待できる。また、本結果を基に投稿した論文はイギリス科学会が投稿した論文はイギリス科学会が発行するSoft Matterに掲載され、掲載号の表紙を飾った。



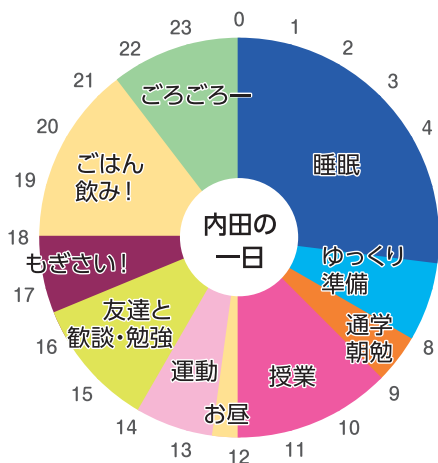
私たちのリアルな1日

時代は変わっても、学生生活の“らしさ”は変わらない。
朝の慌ただしさ、授業の合間のほっと一息、サークルでのにぎやかな時間。
私たちのとある1日をグラフにしてみました。
「昔もこんなだったなあ」と懐かしんでもらえたら嬉しいです。



村上紫音 (経済・マネジメント)

バイトがない日は、サークルの子とご飯を食べに行ったりしています！みんなでご飯食べ終わったらカラオケも定番の流れ！大人数で歌うのは楽しい！



内田賢 (経済・マネジメント)

やっぱり、大学生はご飯や飲み会！去年から飲めるようになり、お酒の楽しさがだんだんと分かるようになりました！

バイト

村上紫音
○ラーメン屋
○ランドセル販売
○オンライン塾
割と忙しいですが、
すごく楽しい！
子どもと触れるのが癒される…

内田賢
○飲食店
「継続は力なり！」かれこれ
2年以上続けていて今では接客マスターになってしまいました笑 帰り際のお客さんの笑顔にやりがいを感じます！

趣味、課外活動

勉強に加えて自分の「好きなこと」や「やってみたいこと」にも積極的！
課外活動や趣味を通し、新しい仲間と出会い、自分の世界を広げています。
サークル活動はもちろん、
今回は、私たちの“ちょっとプライベートな一面”をご紹介します。

[趣味]

- ・ドライブ
- ・旅行
- ・ショッピング

[課外活動]

- ・模擬裁判実行委員会
- ・学生団体の中でアパレル！

車は持っていませんがドライブが好きで去年は福井まで行きました！また、学生団体という外部のインカレで子供服を作っています！

[趣味]

- ・サッカー
- ・漫画
- ・ライブ

[課外活動]

- ・模擬裁判実行委員会

地元球団である浦和レッズを応援していて現地観戦に行くこともあります！
また、緑黄色社会や日向坂46のライブによく行きます！

モギサイって…？

私たちの所属「模擬裁判実行委員会」は自主ゼミナールというもの！



Q1.モギサイとは何ですか？

1年をかけて1つの“モギサイ公演”を作り上げるサークル！

Q2.“モギサイ公演”って？

毎年違うテーマ公演をすることで観客の皆様には社会問題について考えてもらう

Q3.何がすごいの？

毎年、100人規模で公演を作り上げており、劇のシナリオや当日のメイク、照明などすべて自分たちで動かしているところ！今年からSNSでの集客にも力を入れております！

随時メンバー募集してます！



模擬裁判実行委員会

村上紫音

内田賢

(人文社会科学部3年)



X



Instagram



Facebook

SNSのフォローもお願いします！

東京ふすま会活動報告

東京ふすま会

2024年度はコロナ禍の影響も無くなり、年間行事・会合も計画通り催行され、会員間の親睦が以前にも増して深まったと思っております。半面、会員減少の波を防げず、長年の問題解決には至らなかった、と反省しております。同窓会、同期会、同級会、同郷会等の衰退が顕著になっているように思われ、危機感を強く致している現状です。

2024年度を振り返り、東京ふすま会の活動をご報告いたします。

1 第1回常任理事会

2024年5月20日 会場：高円寺事務所

伝統ある東京ふすま会始まって以来の赤字予算について、意見・異見で混雑。特別寄付金を仰ぐとの提案にも、最終的には、現状止む無しと理解を得た。

2 理事会・総会

2024年6月2日 会場：神田錦町 学士会館

やはり赤字予算・特別寄付金について、質疑応答あるも了承された。



3 第34回 見学会

2024年9月21日 見学先：品川神社、荏原神社、品川宿

宝井琴鶴師匠（綿貫麦 人文34回 国立大学出身唯一の講談師）の案内。

歴史散歩、講談会、親睦会を行った。由緒ある品川神社を参拝し境内にある板垣退助を墓参、東海道品川宿を散策し、しばし心は江戸時代に戻る。その後、田町で食事会、琴鶴師匠の講談会、のち希望者で懇親会を行い、懇親を深めた。



4 第14回 芋煮会

2024年10月26日 会場：新木場若洲海浜公園キャンプ場

会場予約が中々取れず、10月末になった。山形の里芋に固執、山形より仕出し、味にうるさい面々を黙らせた絶品に仕上げた。久保田明菜さん（人文37回）が子供を連れて参加。賑やかさを演出してくれた。



5 新年懇親会

2025年1月25日 会場：銀座 吉乃翔

5月の総会に引き続き、高橋会長にご出席頂いた。東京ふすま会の年中行事も恙なく推移し、和やかな雰囲気であった。



*新春トーク

堀川 真氏（人文14回）

城郭理解の基礎知識城巡りを充実するために最近のお城ブームに寄せて、お城の理解の為の基礎知識を述べた。

・日本の城の歴史・城の形態・天守の形式

宝井琴鶴師匠（人文34回）

現役山大学生に講義

学生時代やその後の経験が現在の人生に生かされていること、明るい話だけではなく、シビアなお金のこと、自分自身の人生観等を話した。

6 会報「乾坤」

予定通り3回（159、160、161号）発行したが、経費削減のため12頁仕立てとなった。

7 2025年度（令和7年度）行事予定

会長代行 稲村英夫（文理16回）

関西あれこれ

関西支部

今年の関西は、あれこれあわただしい。その第一原因は、やはり「大阪万博」だろう。英語・ロシア語のガイドを生業としている以上、一度は見ておく必要があるだろう、と開会2日目に予約した。

ちょうどその日は、某国のナショナルデー。「大統領も来られるので、パビリオンに来ませんか？」と、私も所属するロシア語通訳協会を通じて、招待状を受け取った。半信半疑で、受付でその招待状を見せると、「どうぞ、こちらへ」とVIP待遇を受けた。

会場に入る。まずは、世界最大の木造建築の、例の大屋根リング。そして各国のパビリオン。私は、バーレーンで、砂漠を模したソファに寝転がって見た、満天の夜空が忘れられない。

VIP待遇で来た以上、積極的に参加しなければ、と人一倍はしゃいでいたら、「お父さん、楽しそうですねえ。」とテレビのインタビューまで受け、思わず「万博万歳！」と言ってしまった。万博に関して、前日まであんなに懐疑的だったのに。



さて、関西支部についていえば、6月14日(土)に、遠足を準備中。場所は京田辺市の「一休寺」。勉強の後には、もちろん懇親会だ。

支部長 加藤 学 (人文3回)

会員相互の連携と親睦

仙台支部

会則は、会の目的として「会員相互の連携や親睦を図ること」を掲げ、目的達成のために各種の行う、と期しています。

年々卒業生が増えて、会員規模は巨大化していますが、会の活動に参加する会員は少数に止まり、目的達成へのハードルは高いのが現実です。

目的の達成(参加人数の拡大)への要は、事業の展開によるとも見られますが、事業企画に工夫を重ねている仙台支部の活動について報告します。

今年の新年会は、「新春コンサート」を仙台・山形支部交流会と銘打って、(ハワイアン&フラダンス)の一行を招き、開催しました。



仙台は14名、山形7名、出演メンバーを加えて、会場は30数名の大賑わいのイベントとなりました。

出演は、同窓の菊地和彦氏(文理11回)がマスターを務める「仙台ハワイアン倶楽部・マリオブア」と共演の「フラ・フラレファ」皆さんで、ポピュラーなハワイアンメロディーや、(白いブランコ)(昂)(花笠音頭)(カチューシャ)など歌って踊る場面もあり、アンコールは、山大学生歌(みどり樹に)と、大いに盛り上がる内容でした。

開会セレモニーでは、宍戸仙台支部長(文理15回)が、歓迎の辞と交流会とした経緯を、戸石山形支部長(人文1回)からは、お礼と今後の山寺で行われる交流会への多数の参加を期待すること、高橋ふすま同窓会長(人文2回)の新年のお祝いとともに、現在、同窓会が進めている改革のお話、同窓生の8割がたを占める山形・仙台支部の役割への期待についても、お話がありました。乾杯のご発声は、佐島仙台支部顧問(文理7回)、締めは山形支部・松田博之氏(文理13回)が勤めました。

すべての事業に新風を吹き込み、多数の会員へアピールしていきたいと思っています。

事務局長 宮城洋三(文理5回)

山形からの報告です！

山形支部

この頃、毎日の天気が気になりますが、皆さんのところはいかがでしょう。

全国的には、地域によって雨や雪の量が多かったり、そうかと思うと乾燥したり、変動が大きかったりして大変です。

山形でも、日中の暑さや朝晩の温度差が大きかったりするので、これからは、特に熱中症や体調にも十分気を付けて過ごしていきたいと思っています。

さて、令和7年度のふすま同窓会の本部総会が令和7年5月17日(土)、小白川キャンパス内の、理学部4階にある「ふすまホール」で開催され、本部総会に引き続き、山形支部総会も開催されました。

次に、山形支部の令和6年度事業について、簡単に振り返っておきます。

【談話会 (小旅行)】

第1回 (談話会)：令和6年6月14日(金)、山形大学人文社会科学部准教授の小幡圭祐先生に、「地図から読み解く三島通庸の山形県都建設」という題で、映写を交えながら大変興味深いお話をいただきました。

学生時代を過ごした山形の歴史の、新たな側面を見聞きして興奮を覚えた人も多かったのではないのでしょうか！？

第2回 (小旅行)：令和6年9月27日(金)に、会員22名が貸切バスで新庄市を探訪しました。この日は、素晴らしい行楽日和に恵まれました。

最初に訪れた『鳥越八幡神社』の本殿は、寛永15年(1638)に建造され、新庄最古の建造物であり、拝殿を含めた全体の構成が美しく、江戸時代の建築技術の高さがうかがえる貴重な建物として、現在この一帯は「八幡公園」として、年間を通じ皆さんに親しまれているとのこと。

また、今回行くのを楽しみにしていたのが、『新庄ふるさと歴史センター』でしたが、旅行の前の7月に襲った集中豪雨で庄内・最上地方が甚大な被害を受けて、この施設も停電や資料等が水浸しとなったりして、残念ながら入館することができませんでした。7年5月の今現在も、入館はできますが、一部しか見られないとのこと。

会館全体が復旧した暁には、皆さんにぜひ訪れてほしいと願っております。

このほかにも、雪害救済運動によって昭和8年(1933)に設置された『雪の里情報館』や、「最上公園」の名で親しまれている『新庄城跡』、昭和初期に建てられ、「原蚕の杜」「産直まゆの郷」としても利用されている『旧農林省蚕糸試験場新庄支場』、そして、国指定史跡の『新庄藩戸沢家墓所瑞雲院』などを参拝、見学してきました。

第3回 (談話会)：令和7年2月1日(土)同窓会館で、山形県立米沢栄養大学・山形県立米沢女子短期大学学長の阿部宏慈先生から「山形大学人文学部の日々」という題でお話しいただき、映写を入れながら、楽しいひとときを過ごさせていただきました。

その後の講師を囲んでの、恒例の「恵方巻を食べる会」でも大いに盛り上がり、会場は賑やかで楽しく懇親を深めました。

ここで特筆したいのは、初めての試みとして、同窓会館での会場に来られない、村山地域以外の庄内、最上、置賜地域在住の会員の方に、ハガキで今回の案内を出して、オンラインでの参加を呼びかけたことです。これからも、オンラインでの利用を広めていきたいと考えております。

【山形・仙台支部交流いも煮会】

令和6年9月14日(土)に、本部主催による山寺でのティーデマン碑供養が行われました。その後の山形と仙台支部との交流いも煮会は、門前の「ふもとや本店」で開催され、仙台からの参加者6名を含む総勢23名で、賑やかで楽しいひとときを過ごしました。



山形支部長 戸石健二 (人文1回)

どうすれば いいものか

札幌支部

コロナ禍以降、元に戻らずに、休暇中の、残念な、札幌支部の状況です。

令和6年11月の、ふすま同窓会会員名簿第21号から拾ってみると、道内には419名もの人数が、健在なのだと、心強く思わなければならない。

しかしながら、前回の名簿から抽出して、往復葉書で近況報告を求めた時には、残念な事に2割にも満たない返信結果に、がっかりして落胆したものです。シカトされるのは非常に辛いものです。もう往復葉書はやめようと思ったものです。

現状の北海道在住の卒業生に、ふすま会のメリットを感じさせる何かがなくては、必要性を感じさせる何かがなくては、返事する事も面倒なのでしょうね。

絆が強かった旧学寮の経験者が、年々年を取り亡くなったり、外出できなくなって、時々集まって山形での青春時代の話で盛り上がる事が無理になりました。

小生にとっての山形での4年間、それも学業生活での4年間は、小生の第2の故郷そのものです。

北海道の田舎育ちの私が札幌に戻ってから、今は札幌山形県人会の副会長なのです。月に1、2度は山形県事務所（今は山形県観光物産協会北海道支部というのが正式名称）に出向いて、会計担当としての役目を果たしているのです。

秋のいも煮会、春の総会、ゴルフ会、パークゴルフ会、旅行会等の行事をしていて、200名程の人が会費を納めてくれています。

それに比べて、ふすま会の結びつきは、弱弱しい限りです。広い北海道に散らばっている会員が喜べるような何かが、ないものか。思案投げ首、困ったものです。

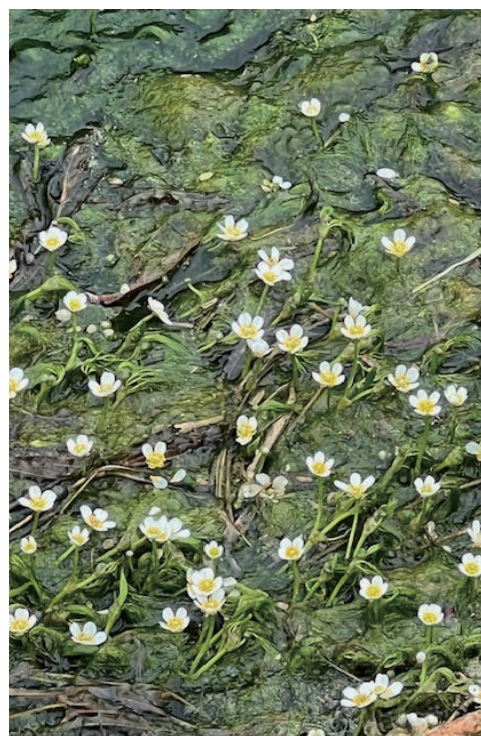
島田良廣（文理15回）

水中花・バイカモ(梅花藻)の里を訪ねて

北陸支部

私の住む富山県環境は、多種類の動植物が住む。その中でもバイカモは観光客にも人気があると聞く。先日、友人宅を訪ねた時は小さな橋の上から川面を見ることができ、バイカモの花びらが水にゆれていた。急流に負けず、冷たい水にも震えずバイカモは元気いっぱいだった。

我等「ふすま会・同窓生もこのようでありたい」そして春の歌を共に歌おう。



蓮井信吉（文理16回）

会員の皆様への情報提供の促進について

同窓会発足以来、年に1度のサイクルで「ふすま同窓会報」を発行し、会員の皆様に様々な情報を紙面でお届けしてきました。会における使命の一つとして、今後とも情報提供を継続していきますが、一方で、新しい提供媒体を活用して迅速に提供していくことも時代の要請であると痛感しています。

そこで、一昨年に、ホームページのリニューアルとフェイスブックの立ち上げを行いました。

ここでは、結果だけではなく案内等も含めた情報の提供を行うほか、同窓会本部情報のみならず各支部行事への参加呼びかけ、事業報告等にも活用できることから双方向の交流が促進されることになります。

具体的には、巻末にアクセスのためのURLコード及びQRコードを掲出していますので、是非ご活用ください。

また、情報提供の促進については、今後とも見直しを進めてまいります。

学生等支援事業の概要について

ふすま同窓会では、これまで、同窓会の自主事業、学生等への支援事業、そして大学等との協賛事業を3本柱に、所要額を予算化し、実施しています。予算項目については、模擬裁判や海外留学、八峰祭など、さまざまな教育研究活動やサークル活動への支援事業があげられます。学生が生き生きと活動し、意義ある学生生活を送ることを願うとともに、同窓会への関心をもってくれることを期待しております。

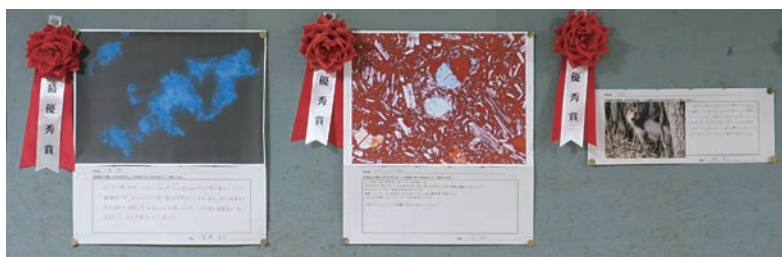
なお学生支援事業の実施に当たっては、従来通り、両学部の副学部長さんと同窓会長等で構成する「専門委員会」で協議・検討をすすめることとしております。

上記の外、令和6年度のユニークな支援事業を紹介します。理学部での、「山大サイエンス川柳」事業は、令和4年度から3年目となりますが、新たに今年度より「山大サイエンスフォトコンテスト」事業も行われ、川柳同様に優秀作品への賞品と参加賞をそれぞれ贈呈しております。

山大 サイエンス川柳の 優秀作品

最優秀賞：「新発見 誰かに伝える 難しさ」
優 秀 賞：「相対論 曲がる時空に 涙する」(ふすま同窓会長賞)
「教授室 ノックの前に 深呼吸」
佳 作：「研究中 たまーに固まる PC(きみ)と僕」
「研究の 楽しさ見つける B4の冬」
「見つからず わが卒論の 着地点」

山大 フォトコンテストの 優秀作品



第14回 安達峰一郎記念世界平和弁論大会

「第14回安達峰一郎記念世界平和弁論大会」が、令和6年11月10日(日)に山辺町中央公民館で開催された。弁論大会はふすま同窓会が後援し、山形大学認定都市・地域学研究ユニットと山辺町NPO法人の魅力再発見プロジェクトが主催し実施された。

今年は、公益財団法人安達峰一郎記念財団の理事長鈴木正貢氏と常務理事の石田照雄氏が東京より足を運んで、記念品を贈呈してくれた。

県内外から、中学生49人、高校生23人の応募があり、原稿を審査し、予選を通過した中学生6名、高校生5名が弁論大会に臨みました。最優秀賞には、中学生の部で、山形大学附属中学校1年の武田麻希さん、高



等学校の部では、山形県立山形西高等学校2年の梅津后さんが受賞した。

武田さんは、『平和の尊さをメロディーに乗せて「被爆ピアノ」と私』と題し、毎年演奏している被爆ピアノ演奏し、恒久の平和の発信を誓いました。

梅津さんは『知る努力が世界を変える』と題して、オーストラリアへホームステイして経験したことから、尊重し合える世界にするためには、異文化の理解を深め、お互いを知ることが必要と結びました。

ふすま同窓会から、高橋節会長が優秀者にふすま同窓会長賞として、記念の盾と図書券を贈った。



第52回 模擬裁判「謀りて～一本の電話～」



第52回となる模擬裁判公演も、ふすま同窓会様からの多大なるご協賛を賜り、令和6年12月6日(金)・7日(土)の2日間にわたり山形テルサにて無事に開催することができました。これもひとえに皆様の温かいご支援の賜物と存じ、厚く御礼申し上げます。

山形大学模擬裁判実行委員会は、一昨年に節目となる50周年を迎え、昨年は次の半世紀へと向けて歩み始めました。先輩方の伝統を受け継ぎながらも、その時代で注目度が高いテーマに挑戦し、メッセージ性のある公演を作り上げてまいりました。1年間の研究成果を「模擬裁判劇」という形で発表することによって、社会問題や法律問題に対する地域の皆様の知識・関心を高めるという目標は活動の軸となっており、これからも大切にしていきたいと思います。

今年のテーマは「特殊詐欺」です。昨年度の総認知件数は約19,000件で被害額は約452億円に上ります。これは、手口が複雑化していることも関係してはいると思いますが、詐欺自体が認知度の高い犯罪であるにもかかわらず、騙されるわけがないといった思い込みなど、油断が原因となり、被害に遭ってしまうのではないのでしょうか。

劇中では、特殊詐欺に加えて闇バイトについても触れることで、被害に遭いやすい高齢者に対する注意喚起だけでなく、犯罪の片棒を担ぐ可能性

が比較的高い若者へ警鐘を鳴らすという点も意識しました。現在、なぜ「特殊詐欺」は大きな社会問題となっているのか、その裏側にはどのような背景が存在しているのか。公演を通してこれらの点についてもご一考いただきたいとの願いを込め、実際に「高齢の母親を連れて観に行ってきた。身近となっているこの問題について考える良い機会となった。」など、お褒めの言葉をいただきました。本公演が、地域の皆様が少しでも安心して暮らすことができる社会の実現に貢献し、また、若者や社会の動向を知った上で、法や裁判との関係性についても考えていただくきっかけとなっていましたら幸いです。

模擬裁判実行委員会は本公演をもちまして第53代へとバトンを渡します。今後ともふすま同窓会様を始めとする地域の皆様並びに諸先輩方に、関心をお寄せいただくことができる活動に励んでまいります。私たち学生が・若者が、「地域の皆様に社会問題や法律問題を考えていただくきっかけを提供する」ために何を考え、どのように取り組んでいるのか。公演開催だけでなく、日々の活動にもぜひご注目ください。

今後とも模擬裁判実行委員会への温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

第52代委員長：人文社会科学部4年 松井友哉

第53回模擬裁判の公演は、2025年12月18日(木)、19日(金)に「少年法」をテーマに山形市民会館で実施されます。

「ふすま文庫」令和6年6月～令和7年5月

令和6.7.1	第二歌集 梅花藻	加藤 啓(加藤 啓寄贈／文理2回)
7.3	検証・ヒトが招いた地球の危機	山大地球環境研究会(田宮良一寄贈／文理10回)
7.3	山形県 地学のガイド	山野井徹也(田宮良一寄贈／文理10回)
12.4	がっさん通信	花輪公雄(花輪公雄寄贈／元山形大学理事・副学長)
12.11	詩集 月のじかん	いとう柚子(伊藤紀美子寄贈／文理11回文)
12.11	いとう柚子詩集 冬青草をふんで	いとう柚子(伊藤紀美子寄贈／文理11回文)
12.11	人間教育	亀井勝一郎(小関朋子寄贈／教育学部)
12.11	日本人の精神史研究 (王朝の求道と色好み・古代知識下級の形成・中世の生死と宗教観)...	亀井勝一郎(小関朋子寄贈／教育学部)
12.11	現代詩の中のひとり	亀井勝一郎(小関朋子寄贈／教育学部)
12.11	私の人生観	亀井勝一郎(小関朋子寄贈／教育学部)
12.11	現代史の課題	亀井勝一郎(小関朋子寄贈／教育学部)
12.11	芸術の運命	亀井勝一郎(小関朋子寄贈／教育学部)
12.11	絵画 学窓懐古	(小関朋子寄贈／教育学部)
12.11	絵画 フスマに涼む	(小関朋子寄贈／教育学部)
令和7.2.1	柄沼、その他の詩	阿部宏慈(阿部宏慈寄贈／元山形大学理事・副学長)

各学部の退職教員

・人文社会科学部総合法律コース 高橋 良彰教授(令和7.3.31)	・理学部物理学分野 岩田 高広教授(令和7.3.31)
	・理学部物質生命化学分野 亀田 恭男教授(令和7.3.31)
	・理学部地球環境学分野 鈴木 利孝教授(令和7.3.31)

深 悼

心からご冥福をお祈り申し上げます
(令和7年5月31日まで受付分)

山高16回文乙 済 東格 平26.8.27	文理2回文・経済 相馬 健一 令7.5.15	文理16回文・経済 原田 康司 令6.5
山高16回理甲 村内 必典 令6.7.20	文理3回理・物理 志田 秀雄 令5.5.21	文理17回理・数学 佐藤 正利 令6.4.19
山高23回理甲 藤井 喬 令5.6.21	文理5回文・経済 高橋 英士	文理17回理・化学 大塚 彰 令6.5.3
山高27回理科 関 寿和 令5.10.31	文理6回文・経済 奥山 教良 令5.4.23	人文2回経済 長谷川 実 令6.11
山高27回理科 柴田 邦二 令3.7.11	文理6回文・経済 吉田 良吉 令6.9.6	人文3回法律 阿部 勝
山高28回文乙 豊川 洋 令3.	文理6回理・地学 阿部 健一	人文4回哲学 大場 正行 令4.6.10
山高28回理科 中澤 宏	文理7回文・経済 高橋 正光 令6.7.27	理6回物理 坂東久仁男 平28
山高28回理科 篠田 明	文理8回文・歴史 本間惣太郎 令7.1.3	理11回物理 松浦 淳一
山高28回理科 榊谷 博	文理8回理・物理 菅沼 栄一 令6.10.29	以上 34名
山高29回文乙 鈴木 亮造 令6.5.12	文理10回文・経済 尾田 克二 令6.9.25	
山高26回理科4 池上 雄作 令6.12.20	文理10回文・法律 田中 厚 令6.5.19	
文理2回文・経済 高橋 勲 令6.3.5	文理11回文・歴史 塚崎 敏 令7.5.14	
文理2回文・経済 中目 文男 令6.6.21	文理16回文・国文 佐々木由紀子 令7.4	

